

白馬村を美しくする「花の村」事業

取り組みに至る背景・事業の目的

白馬村はスキー主体の観光からグリーンシーズンの観光に向けた取り組みを進めるため「白馬 Alps 花三昧 2003」のタイトルの下に、「高山植物、山野草の花の村」づくりを進めている。

こうした中、貴重な植物資源及び自然景観を、村の大切な財産として保全し、村民が誇りをもって後世に伝えられることを目的に活動を行い、地域の活性化を図る。

事業内容

通称「オリンピック道路」の沿線に山野草「ミソハギ、オミナエシ、アジサイ、アヤメ、ニッコウキスゲ、ヤナギラン、イブキジャコウソウ、シモツケソウ、アサマフウロ」と「ヘブンリーブルー（西洋朝顔原産地南米）」を植栽した。



事業効果

事業を始めて5年で、5ヶ所約2,000㎡に植栽し、「花の村白馬」の景観形成に効果があった。

特に「ヘブンリーブルー」は、3.5kmの沿道にブルーの朝顔が咲いていることの魅力が大きく、役場、観光局、地域への問い合わせが多く、観光面に寄与していることがうかがえた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

草取り等の維持管理が今後の課題である。一部には、マルチをすることにより、草取りの負担が軽減され、効果を発揮している。

地域の植栽は一段落したので、今後、活動を他の地域に広め、他の地域と連携して主要幹線道路沿線や空き地への植栽を進めることにより、「花の村」白馬を目指したい。

【選定のポイント】

観光の観点からも効果的な箇所における景観形成事業であり、事業効果が大きい。

団体名	NPO法人白馬の自然と花を育む会（白馬村）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	太田敏彦 0261-71-8989	事業費	959,311円
	Npo-hakubahana@zpost.plala.or.jp	支援金額	649,000円